

あなたのそばで、力になりたい。 standbyyou

毎月28日は
いじめ防止対策
を考える日に

「#stand by you」は、アスリートとアーティストが協働して、いじめなどの悩みを「相談できずに苦しんでいる子」と「助けられなくて悩んでいる子」に、相談するきっかけと窓口を届けるプロジェクトです。



悩んでいるあなたへ

さんが
近賀ゆかり

1984年生まれ。神奈川県出身。オルカ鴨川FC所属。これまでの所属チームは、日テレ・ベレーザ、Arsenal Women FC、INAC神戸レオネッサ、Canberra United Women、杭州女子倶楽部、Melbourne City FC Women。11年女子W杯ドイツ大会優勝、12年ロンドン五輪メンバー。日本代表 国際Aマッチ 100試合出場 5得点。HEROsアンバサダー。



宝物をくれた、 日本・イギリス・中国の仲間ありがとう。

「あなたにとって、いちばん好きなことは？」って聞かれたら、なにを思いうかべる？……いきなり聞かれても、ちょっと答えづらい？

では先に、わたしが答えます！わたしにとって、いちばん好きなこと。それははずばり、「仲間とサッカーをすること」。もう心の底から、私はサッカーが好きです。

でもね、サッカーだったらなんだっていいわけではないの。大切なのは、そのサッカーを「仲間とする」こと。サッカーの仲間とすごした日々こそ、わたしにとって一生の宝物。そうそう、ふりかえるとね、わたしはいろんなタイミングで、いろんな仲間に助けってもらったの。

まず頭にうかぶのが、わたしが小学生だったころ。わたし以外はみんな男の子、しかもその男の子たちとはほぼ初対面、というチームで練習することがあって。みんなはそういうこと、これまでにあった？

わたしは男の子にまぎってサッカーをするのはなれてはいたけど、そのときの男の子たちはわたしにどう接したらいいんだろう、という感じ。だから、二人一組でやる練習とかがはじまると、男の子たちは男の子たちとペアを組んで、わたしがひとりぼっちになっちゃうことが、けっこうあったの。

でもね、そういうときにいつも、チームに一人か二人、「おう、やろうぜ！」と声をかけてくれる明るい子がいたんだ。わたしから声をかければいいのだけど、はずかしくてできない。そんなとき、わたしのほうへ一歩踏み出してくれた仲間がいて、ほんとうに心強かったなあ。

心強いといえば、わたしがいたイギリスのチームの仲間もすごかった！そのチームは監督が急にやめることになり、チーム全体に不安な空気が。そんなとき、練習を終えて自宅に帰ったら突然、ピンポーン。玄関をあけたら、なんと、そこにはさっきまでいっしょに練習をしていたチームメイトが三人。



「ゆかりも私たちも、みんな心配することはないからね。こういうときこそ、練習と試合に集中しよう」

その一言を言うために、練習を終えて疲れているのに、わざわざ私の家に来てくれたの。「わたし、そんなに不安そうだったかな？」とちょっと反省もしたけれど、自分のことを大切におもってくれる仲間がいることが、ほんとうにうれしかったなあ。

最後にもうひとつ、涙が出そうになったのが、わたしが中国のチームに入った一日目のこと。わたしが寝泊まりする部屋に行くと、そのチームの監督とチームメイトが全員集合！

「ええ、なにがはじまるの？」とあたふたしていたら、みんなわたしに中国語でどンドン話しかけてくる。スキンシップも激しい。正直いって、言葉はよくわからなかった。でも、みんなが力いっぱい、わたしのことを受け入れてくれていることを肌で感じて、会ったばかりなのに、あれは家族といっしょにいるような安心感だったなあ。

そういう「自分が思ってもみなかったことを、だれかにしてもらった」みたいな経験、みんなにもぜひ思い出してみしてほしいなあ。きっと、あると思う。

あとね、わたしがおもしろいなあと思うのが、だれかにそういうことをしてもらおうと、今度は自分がだれかの力になりたい！恩返ししたい！って思ってくるんだよね。だれかが勇気を出して、わたしに声をかけてくれた。だから困っていきそうな子がいたら、次はわたしから声をかけてみよう、って。

やさしい気持ち、すこしの勇気が、となりの人から自分へ、自分からまたとなりの人へ。仲間って、そういう風にして、ちょっとずつ増えていくのかもね。みんなにも、一生の宝物と言えるような、すてきな仲間との日々がずっと待っているよ！

(記事編集・山下智也)

相談窓口一覧

なやみ言おう
#「24時間子どもSOSダイヤル(文部科学省)」:0120-0-78310

#「子どもの人権110番(法務省)」:0120-007-110

#「いのち支える窓口一覧」で検索

#10代のための相談窓口「Mex」で検索



あなたのそばで、力になりたい。 standbyyou

毎月28日は
いじめ防止対策
を考える日に

「#stand by you」は、アスリートとアーティストが協働して、いじめなどの悩みを「相談できずに苦しんでいる子」と「助けられなくて悩んでいる子」に、相談するきっかけと窓口を届けるプロジェクトです。



悩んでいるあなたへ

さんが
近賀ゆかり

1984年生まれ。神奈川県出身。オルカ鴨川FC所属。これまでの所属チームは、日テレ・ベレーザ、Arsenal Women FC、INAC神戸レオネッサ、Canberra United Women、杭州女子倶楽部、Melbourne City FC Women。11年女子W杯ドイツ大会優勝、12年ロンドン五輪メンバー。日本代表 国際Aマッチ 100試合出場 5得点。HEROsアンバサダー。



宝物をくれた、 日本・イギリス・中国の仲間ありがとう。

「あなたにとって、いちばん好きなことは？」って聞かれたら、なにを思いうかべる？……いきなり聞かれても、ちょっと答えづらい？

では先に、わたしが答えます！わたしにとって、いちばん好きなこと。それはずばり、「仲間とサッカーをすること」。もう心の底から、私はサッカーが好きです。

でもね、サッカーだったらなんだっていいわけではないの。大切なのは、そのサッカーを「仲間とする」こと。サッカーの仲間とすごした日々こそ、わたしにとって一生の宝物。そうそう、ふりかえるとね、わたしはいろんなタイミングで、いろんな仲間に助けってもらったの。

まず頭にうかぶのが、わたしが小学生だったころ。わたし以外はみんな男の子、しかもその男の子たちとはほぼ初対面、というチームで練習することがあって。みんなはそういうこと、これまでにあった？

わたしは男の子にまぎってサッカーをするのはなれてたけど、そのときの男の子たちはわたしにどう接したらいいんだろう、という感じ。だから、二人一組でやる練習とかがはじまると、男の子たちは男の子たちとペアを組んで、わたしがひとりぼっちになっちゃうことが、けっこうあったの。

でもね、そういうときにいつも、チームに一人か二人、「おう、やろうぜ！」と声をかけてくれる明るい子がいたんだ。わたしから声をかければいいのだけど、はずかしくてできない。そんなとき、わたしのほうへ一歩踏み出してくれた仲間がいて、ほんとうに心強かったなあ。

心強いといえば、わたしがいたイギリスのチームの仲間もすごかった！そのチームは監督が急にやめることになり、チーム全体に不安な空気が。そんなとき、練習を終えて自宅に帰ったら突然、ピンポン。玄関をあけたら、なんと、そこにはさっきまでいっしょに練習をしていたチームメイトが三人。



「ゆかりも私たちも、みんな心配することはないからね。こういうときこそ、練習と試合に集中しよう」

その一言を言うために、練習を終えて疲れているのに、わざわざ私の家に来てくれたの。「わたし、そんなに不安そうだったかな？」とちょっと反省もしたけれど、自分のことを大切におもってくれる仲間がいることが、ほんとうにうれしかったなあ。

最後にもうひとつ、涙が出そうになったのが、わたしが中国のチームに入った一日目のこと。わたしが寝泊まりする部屋に行くと、そのチームの監督とチームメイトが全員集合！

「ええ、なにがはじまるの？」とあたふたしていたら、みんなわたしに中国語でどンドン話しかけてくる。スキンシップも激しい。正直いって、言葉はよくわからなかった。でも、みんなが力いっぱい、わたしのことを受け入れてくれていることを肌で感じて、会ったばかりなのに、あれは家族といっしょにいるような安心感だったなあ。

そういう「自分が思ってもみなかったことを、だれかにしてもらった」みたいな経験、みんなにもぜひ思い出してみしてほしいなあ。きっと、あると思う。

あとね、わたしがおもしろいなあと思うのが、だれかにそういうことをしてもらおうと、今度は自分がだれかの力になりたい！恩返ししたい！って思ってくるんだよね。だれかが勇気を出して、わたしに声をかけてくれた。だから困っていきそうな子がいたら、次はわたしから声をかけてみよう、って。

やさしい気持ち、すこしの勇気が、となりの人から自分へ、自分からまたとなりの人へ。仲間って、そういう風にして、ちょっとずつ増えていくのかもね。みんなにも、一生の宝物と言えるような、すてきな仲間との日々がずっと待っているよ！

(記事編集・山下智也)

相談窓口一覧

